

サポートツール全国キャラバン2011「教材教具研修会」in 札幌

発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた
指導・支援の具体的方法

研修会報告書

2011年6月5日

札幌市教育文化会館 305号室

主催：特定非営利活動法人 全国LD親の会

共催：特定非営利活動法人 北海道学習障害児・者親の会クローバー

【研修会開催趣旨】

2007年4月、学校教育法が改正され、特別支援教育が法的に位置づけられた。小、中学校での支援が本格的に始まり、LD等の発達障害がある児童生徒一人一人のニーズに応じた適切な指導及び必要な支援の具体的方法が求められている。全国LD親の会では、2006年度から2年間にわたり、文部科学省から「障害のある子どもへの対応におけるNPO等を活用した実践研究事業」の委嘱をうけ、「LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害向けの教材・教具の実証研究」を日本発達障害ネットワーク（JDDネット）の加盟団体等と共同で行い、学校や療育機関での先行事例・有効事例、家庭での工夫等による教材・教具のアイデア、事例を収集して、LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害のある子どもの困難やニーズに合わせた有効なサポートツール（教材・教具など）を体系的に整理し、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）を作成した。

<http://www.jpald.net/research/index.html>

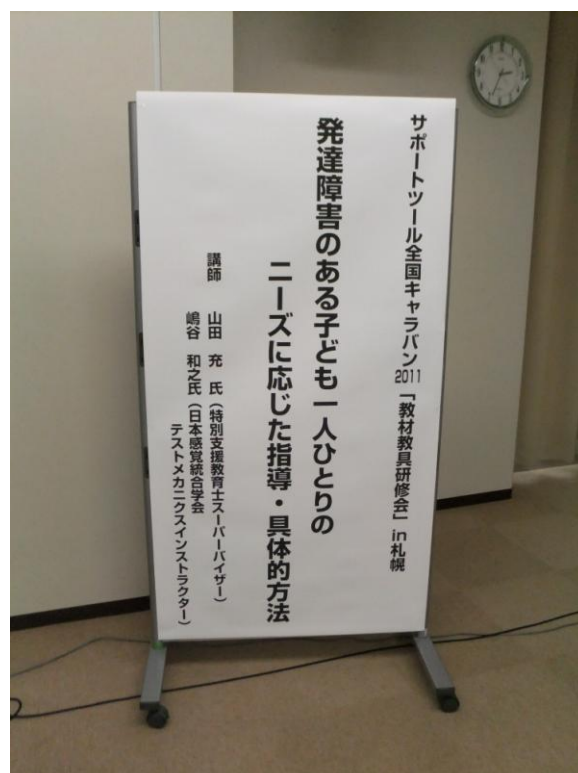
2009年度からは、日本財団の助成を受けて、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）を質、量とも充実させ、普及させるための事業に取り組んでいる。

- 1、子どもの成長を見据えた長期的な視野にたったサポート
- 2、子どもを中心に、関係する多方面における専門家と連携したサポート

という趣旨のもと、教育現場における教材・教具のみならず、就労・自立を見据えた子どもの生活全般にわたるサポートも含めて個別の指導計画作成の参考となるよう、具体的な教材・教具の活用方法についての研修会を開催してきた。準備や開催後の連携を視野に入れて、全国LD親の会加盟の開催地域の親の会を中心に、特別支援教育士資格認定協会S.E.N.Sの会各支部会・各都道府県作業療法士会と連携を図って進めた。

今まで、2009年11月1日新潟市、2010年2月21日佐賀市、2010年5月30日秋田市、2010年11月21日岐阜県大垣市、2011年2月6日徳島市にて教材教具研修会を開催し、講演とワークショップというプログラムや具体的な指導方法の提案が大変好評で、開催後のそれぞれの地域活動に結びつき始めている。

今回の札幌市での開催は、特定非営利活動法人北海道学習障害児・者親の会クローバーが中心になって準備を進めた。学校現場で指導にあたる多くの小学校教員と札幌の作業療法士など多方面における専門家と連携し、LD等の発達障害がある児童生徒に対しての質の高い支援をおこなっていくためにも、身近な教材・教具を活用していく具体的サポート例を提示する研修会を企画した。



【研修会開催要項】

日 時：2011年6月5日（日）9：30～16：30（9：15受付）

会 場：札幌市教育文化会館 305号室
札幌市中央区北1条西13丁目



プログラム

- 1、講演1 「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」
～使い方で変わる教材の有効性～

講師 山田 充 氏
(特別支援教育士スーパーバイザー・堺市立日置荘小学校通級指導教室教諭・
堺市特別支援教育専門家チーム・堺LD研究会・「コミ☆トレ」番組委員)

- 2、講演2 「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」

講師 嶋谷 和之 氏
(日本感覚統合学会テストメカニクスインストラクター・
大阪市更生療育センター作業療法士・大阪府作業療法士会発達部門副代表)

- 3、ワークショップ

「子どものテスト等や、ビデオによる事例検討の手法ワーク」

主 催： 特定非営利活動法人全国LD親の会

共 催： 特定非営利活動法人 北海道学習障害児・者親の会クローバー

後 援： 北海道教育委員会、札幌市教育委員会、一般社団法人日本LD学会、
社団法人日本作業療法士協会、社団法人北海道作業療法士会、
日本感覚統合学会

事務局： 〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-26-5 バロール代々木415

TEL/FAX： 03-6276-8985 E-MAIL： jimukyoku@jpald.net

URL： <http://www.jpald.net/>

「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用 ～使い方で変わる教材の有効性～」

報告者：山田 充（特別支援教育士スーパーバイザー）

講演は、具体的な子どもの姿とその子どものもつトラブルを紹介しながら、その要因が思いもよらない原因で起こっていることを説明することから入っていった。そのことに対応しないと二次障害となる。学校現場などで問題行動を起こす子どもたちの多くは、学習困難への支援がしてもらえず、そこから問題行動に発展する二次障害であることが多い。二次障害というものがあるということを強調しながら話を進めた。

学習困難の要因を探る体験のために、子どもの算数のテスト問題などを提示し、誤りの要因をきちんと考えていき本人の特性と結びつけることで、学習支援の具体的な方法を見つけることが出来ることを紹介した。分析の方法についても、少し紹介しながら進めた。

このように子どもの様子を紹介する事例ベースで、講演をすすめ、その事例の子どもへの対応を紹介する中で、実際に使用している教材（データベースで紹介されている物も含めて）のコンセプトを紹介するとともに具体的な使用方法について説明していった。

次に支援方法を障害特性ごとにまとめて説明した。LD状態への対応は認知への支援、ADHD 傾向への支援は集中への支援、広汎性発達障害傾向の子どもたちには、その特性の理解と特性に沿った道筋の支援が必要であることを紹介した。

2時間に及ぶ講演であったが、参加者はとても熱心に聞いて下さり、たくさんの有り難い感想を頂いた。「子どもの様子や行動を分析することの重要性を認識した。」「今後実践したい。」というような積極的な感想を多数いただいた。



「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」

嶋谷 和之 日本感覚統合学会テストメカニクスインストラクター

大阪市更生療育センター 作業療法士

(社)大阪府作業療法士会 事業部発達部門副代表

ねらい

普段私たちは、何気なく姿勢を保ち、運動を行い、手を使って物や道具を扱っているが、これらはほとんど意識されることなく自動的に行っていることが多い。そのため、感覚運動機能を背景的な要因とする子どもの困難に気づきにくい、分析しにくいという場合も少なくない。

今回の研修のねらいは、以下の2点である。

- ・普段何気なく行っている活動を意識化し子どもの困難と重ね合わせることで、子どもを理解し手立てにつなげるきっかけとする。
- ・すぐにできる物や道具の工夫で、子どもの活動がより行いやすくなることを知っていただく。

また、感覚運動機能の観点からの子どもの見方を説明し、後で行う事例分析のワークにつなげることも目的とした。

内容

①作業療法士の視点について説明を行った。

②感覚運動機能について、以下の2点についてより具体的に説明した。

- ・安定した姿勢が保証されて、効率よく手を使い物や道具を操作できることを説明した。
- ・感覚情報は食物と同じように、人間が生きていく上で必要な栄養素であると捉えることも可能である。子どもに必要な感覚情報を、日常生活の中に溶け込むように提供していくという視点を説明した。

③大阪府作業療法士会パンフレット「発達障がいのある児童・生徒への学習および学校生活援助」から、「よくある相談」のいくつかを紹介し、困難の要因と手立ての例を説明した。

紹介した「よくある相談」は、以下のとおりである。

- ・姿勢の保持が難しい
- ・筆圧が強すぎる、弱すぎる
- ・食べこぼしが多い（箸がうまく使えない）
- ・はさみや定規がうまく使えない。
- ・なわとびができない。

④事例を通して子どもの困難、背景的な要因、手立てを具体的に説明した。

- ・姿勢の保持に困難のある事例。低緊張に加えて、自分の身体の状態を把握しづらいことが背景的な要因。滑り止めシートを座面に敷くと臀部の前ずれは改善するも、左右への崩れに対しては改善が認めにくくハートリーフクッションが必要と考えられた。
- ・椅子を動かすことが多く、座面の縁で座りたがる事例。圧や運動感覚の欲求が高いことが背景的な要因。感覚の欲求を満たすことができるよう座面にクッションを付けると安定して座ることができ、授業をより集中して受けることができた。
- ・鉛筆がうまく持てず書き続けると疲れる事例。手指の巧緻性の未熟さと触覚の分かりにくさのために、三指では細い鉛筆をしっかり持つことができず、代償的に四指で力を入れて持ってい

ることが背景的な要因。三角の鉛筆グリップを付けることで、鉛筆との接点が増え、鉛筆を捉えやすくなった結果、三指で鉛筆を持つことが可能となり疲れずに書くことが可能となった。

- ・指先で箸を操作できずクロス箸になり、何度もつまみ直しをしている事例。手指の巧緻性の未熟さが背景的な要因。子どもに応じた補助具をつけることで、指先で箸を操作してつまむことができるようになった。

⑤子どもが努力して物や道具の操作を行っている場合、出やすい運動のサインを説明した。このような反応を捉えることで、子どもの努力を認めることができること、過剰な負担をかけることがないような工夫や細かな段階付けにつながっていくことを説明した。

⑥教材教具を展示した。ちょっとした工夫で活動がより行いやすくなることを体験していただいた。

【展示物】

- ・斜面台
- ・ハートリーフクッション
- ・滑り止めシート
- ・滑り止めを貼った定規、分度器
- ・紙の下に滑り止めシートを敷くことで、コンパスが操作しやすくなる工夫例
- ・滑り止め加工した三角鉛筆
- ・太い三角鉛筆、色鉛筆
- ・各種の鉛筆グリップ
- ・自由樹脂で加工した鉛筆グリップ
- ・消えやすい消しゴム
- ・工夫を施した箸
- ・バネ付きのはさみ
- ・とび縄の工夫
- ・大阪府作業療法士会パンフレット「発達障がいのある児童・生徒への学習および学校生活援助」
- ・感覚統合関連の書籍

参加していただいた方のアンケートを見ると、一人ひとりの特性に応じた環境調整の重要性、見えにくいつまづきに気づけるよう大人の感度を上げることなど、講演内容の重要なポイントがアンケートに書かれてあり、ご理解をいただけたのではないかと思います。子どもの理解と支援にあたっては、いろいろな視点で多角的に捉える必要があると考える。作業療法の視点が子どもの理解と支援にお役に立てることができれば幸いです。



ワークショップ 報告

研修会の参加者は、道内各地はもとより道外からの方もおられ、スタッフを含めて 100 名を超えました。事前に 11 グループに分けて準備しましたが、遠方の方々が講演終了後お帰りになったこともありワーク参加が 72 名に減少しましたので、急遽 10 グループに編成し直して臨みました。

参加者の所属は、圧倒的に教育関係が多かったのですが、嶋谷先生の北海道作業療法士会への働きかけと、同会のホームページへの掲載の結果、札幌市のみならず遠方からも参加があり、各グループに複数の OT の方を配置できました。

また、児童デイサービスに携わっているの方々が多かったことと、当事者の参加も特徴的なことでした。

対象児は 4 名を候補に挙げ、先生方に 6 年生男児に決めて頂きました。

ワークでは、対象児の学校での授業・自宅での食事・パソコン学習の様子を見た後、各自に配布したテストやノートのプリントを見ながら、30 分ほどリーダーと記録者を中心にグループトークを行いました。

その後、各グループで話し合われたことの発表があり、動作一つ一つから読み取れること、書字の筆圧、感覚的なこと、環境設定等々の特徴的なことが出されました。山田先生と嶋谷先生が項目ごとに書き出し、まとめのコメントを頂きました。

10 分ほどのビデオと数枚のプリントで、姿勢が体全体に及ぼす影響や目と手の協応が学習に繋がって行くメカニズムを知ることが出来、参加者は大きな学びを得たと思います。

一つのグループに多職種のメンバーを配置したことにより、それぞれの立場からの考えを互いに聞くという日頃あまりしたことが無い今回の経験を、今後活かしていただきたいと思いました。

小・中学生を持つ会員達は、学習の支援についてその方法を日々試行錯誤しています。作業療法の視点が学校に取り入れられ、連携を取って子ども達を支援することが早急に実現することを、LD 親の会として切に願っています。

今回対象にならなかった他の 3 名の児童についても、山田先生からアドバイスをいただきました。ご配慮にお礼申し上げます。

1987 年 4 月、札幌医科大学の佐藤剛先生が「感覚統合を育てる親の会」を設立されたことでスタートしたのが親の会クローバーですので、今回の研修会は大きな意味を感じて開催しました。20 年ほど前に子どもが感覚統合訓練を受けていたスタッフ達は、教材教具を目にして自分たちの子どもにもその頃使わせてあげたかった、と感慨深いものを感じながら会場にいました。

ご来道いただきました山田先生、嶋谷先生はじめこの研修会の主催者であります全国 LD 親の会に、貴重な機会をいただきましたことに感謝申し上げます。

(長田)



- ・ とても具体的でした。
- ・ 具体的な例と対策の立て方がとても参考になりました。どんな子にも対応できそうな気がしました。が、そう簡単ではないでしょうが。
- ・ 事例を使って教材について説明をされていたのでとてもわかりやすかったです。滑り止めシートの活用例は目からウロコでした。
- ・ 実践に基づいた内容でわかりやすかったです。
- ・ 子供をみる時の視点にも気付いてこれからの参考にします。
- ・ 教材をどう使うのかを具体的に聞いたのが良かったです。それぞれの使い方のねらいを確認出来たり、新たに“あの子に使ってみたい”と思うものがたくさんあったり、とても参考になりました。指導方法、教材の使い方などのアイデアを増やしていき、その子に応じた教材を選んでいきたいと思いました。
- ・ 普段の実践の裏打ちが得られた。また新たな指導の知見も得られた。

■教員/中学校

- ・ 山田先生の講演は2回目ですが、いつもわかりやすく、勉強になります。子供の特性をはっきりととらえるということはなかなか難しいことですし、それにあわせて手立てを教えることも大変なことのようですが、山田先生は簡単にやってしまう人なので、すごいなあと思います。
- ・ 人ひとりのつまずきを分析するだけでなく、関連性をみつけることが指導の糸口になるのだとわかりました。再度、うけもちの子供達を見つめ直してみます。

■教員/高等学校

- ・ 子供の表面にあらわれることと、その背景にある要因を多くの事例でお話いただき、大変参考になりました。

■教員/養護学校

- ・ 具体的な事例が数多く紹介されて、とても勉強になりました。「NO」ではなくて「SOS」というのが、とても印象的でした。
- ・ 事例にそった工夫、改善、特性に応じた方策等、伺う事ができて良かったです。子供が困っている原因を探ること、どう対応して本人のつまずきをなくすかの大切さを改めて感じました。
- ・ 具体的な話でわかりやすく、原因にアプローチしていくことにより、上手くサポートしていけるということがわかりました。ありがとうございました。
- ・ 事例を基に、より具体的にお話ししていただいたので、より実践に生かせる内容でした。とてもわかりやすかったです。
- ・ もっと聞いていたかったです（ワークショップの時間を削ってでも）。多面的に子供を見ていかなければと思っていますが、深くは見抜いていなかった自分自身を反省しました。
- ・ 昨年（？）お聞きした内容とほぼ同じでしたが、2度聞くと捕え方が変わり、有意義でした。

■教員/その他（大学教員、塾講師）

- ・ 触発される事多々あり、今後の実践の指針となりました。自分の弱点をどのように自己認知していくか、ということが課題になりますが、児童期はまずはサポート先行ですね。
- ・ とてもすばらしい内容でした。子供達への視点が温かく具体的な教材で、「子供達がどう変わるか」のお話も印象的でした。時間があれば、もっと多くの事例を聞きたかったです。

■作業療法士/医療&療育

- ・ 教材は知っていたが、使い方までは良く分からなかったもので、今回の研修で教材の使い方や意味がわかりました。事例の捉え方も良く理解できました。
- ・ スライド、話し方、内容とてもわかりやすく楽しく聞くことができました。
- ・ 具体的な説明と事例とても参考になりました。子供達の弱さ、苦手なところを把握することが次に繋がることの重要さを感じました。

■作業療法士/医療（診療所・病院）

- ・ サポートツールの細やかな紹介や多くの事例紹介をして下さり、すぐに実践していける内容で大変ためになりました。担当の子供の顔が次々とうかんでくる程、イメージしやすく良い講演だったと思います。子供を見ていく上で、教師は多くの引出しを持っていると、より子供の本質に近づけることを改めて感じました。
- ・ 事例を多く説明して頂き、とても分かりやすい内容でした。

- ・事例が盛り沢山で参考になりました。カード等実際に使用して授業している様子を動画で見せてもらえるととっても良かったです。
- ・わかりやすく、具体的でした。使ってみようと思うケースもありました。
- ・事例つきで、その症状の特徴やアプローチ方法を詳しく聞く事ができ、とても参考になりました。また、それに使用する教材も知ることができ、興味をもちました。

■作業療法士/療育

- ・事例等、とても分かりやすく参考になりました。

■作業療法士/福祉

- ・子供が困っていることに気付いてあげることの重要性がわかった。自分自身、もっと勉強していく必要があると感じた。
- ・事例をいくつか取り上げて頂き、その子供に合った支援をしていくのが大切だと感じました。問題点ばかりを見るのではなく、根本にある原因を見つけ、かかわっていくことが大切だと学び、大変勉強になりました。

■作業療法士/その他

- ・とても良かった。

■その他/児童デイサービス

- ・子供の見とり方や具体的に子供に知らせていかなければならないこと等、一步踏み込んだ指導を学ぶ事ができました。
- ・幼児さんにアレンジして使えるような物（サイコロ、行動カード）があったので取り入れていこうと思いました。
- ・初めて先生のお話を聴きました。大変分かりやすく、またテンポも心地よく、即試してみようと思えるもの（ヒント）が、沢山得られました。
- ・漢字カード等、教材も興味深いものを見せて頂きましたが、最も印象に残ったのは、その子の問題点を見ぬく力の重要性です。指導を始めてまだ日が浅いので、これから勉強、体験を積んで分析する力を身につけたいと痛感しました。
- ・子供達への友好的な支援が得られました。有難うございました。
- ・今まで参加した障害とは～特徴とは～といった広範囲の話ではなく、1つの例に対し「これを使ってみた」というとても具体的なものだったので、自分でも「これなら出来るかも！」というヒントがたくさんありました。

■その他/教育委員会

- ・非常に簡潔でわかり易かったです。多面的な視点で、その子を捉え、仮説を立てながら、検証していく姿勢が必要なのだと感じました。

■その他/特別支援教育センター

- ・現場に先生の教材あります。使い方更に深めます。

■その他/相談員

- ・通常学級でもすぐに使えるような具体的な指導法を知る事ができ、大変参考になりました。
- ・具体的な特性に応じた子供の状態像がわかり、対応する指導や教材についても知ることができ、良かったです。
- ・驚きの連続でした。特に不注意優勢型の話が一番印象に残りました。
- ・ケースをもとにした具体的なお話でしたので、とてもわかりやすかったです。

■その他/学習支援員

- ・ツールは、色々あることは知っていましたが、どのような子に、どのようにつかえばいいのかがよくわからずにいたので、とても良かったです。

■その他/知的障害者施設

- ・具体例をかなり挙げられ、分かりやすくとても参考になりました。是非、全国の小学校教員に公聴してもらい、クラスの中にいる発達障害で苦しむ子供達一人でも助けになればと感じました。

■その他/心理士

- ・具体例が多かったので、分かりやすかったし、参考になりました。

■その他/大学生

- ・ 図書等で調べていても具体例があまりないため、今回はたくさんの教材や事例を知る事ができて、大変勉強になりました。また教材の中でもお話サイコロは例のような会話をしている自分では気付かないと思うため、使い方としても発見が多かったです。
- ・ 子供のどこに困難があり、どう支援してあげればいいのか、捉える力量が大切なのだと思いました。

■その他/職業紹介所職員

- ・ 事例について具体的な方針や、指導法がよくわかった。教材について、自作できそうなヒントを沢山教えて頂いたので、今後の参考にしたいと思いました。

■その他/一般企業

- ・ 「間違いの仕組みを明らかにすること」→指導・支援も観察と考察なのだと思い、研究的要素があると思いました。

■その他/当事者

- ・ あるある、わかるわかるの連なりでした。

■その他/無記名

- ・ 子供の理解を大人ができる視点が明確になり「方法」「教材」の工夫がわかった。
- ・ 具体的な事例に沿った講義でしたので、とても分かりやすかったです。できたら、スライドに示した内容全てをプリントして頂けたらありがたいです。

(2) 講演2 (12:30~)

「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」

■保護者 /「クローバー」の会員

- ・ 姿勢の大切さは、子どもが小学校入学時(8年前)に作業療法の先生から教えて頂き、滑り止めシートや椅子を作っていただいたりしました。
- ・ 軽やかな口調の中にもすぐ子供に活かせるお話が聞けて感謝です。

■保護者 /その他

- ・ もう少し補助具や強化する遊び、作業例を教えてくださいました。
- ・ 感覚統合の問題は、大きいけれど、まだ、理解されず、困っている子が多いと思います。学校の先生方に、わかってもらえると助かりますね。
- ・ 教材の実物を見られてよかったです。
- ・ 楽しい説明で、参考になりました。
- ・ 補助用具を目にする事ができて納得できました。
- ・ (大人が)工夫して、子供を楽にすることができる事がよくわかりました。

■教員/小学校

- ・ 子供がどんなに困っているか考えることの大切さと教材や教具の工夫により、子供に出来たという達成感や充実感を感じさせてあげることが出来る事を理解。
- ・ 事例に沿った、ちょっとした工夫が支援につながっている事がよくわかりました。なわとび、チューブなど、すぐにでもやってあげたくなりました。
- ・ 事例が多く、イメージを持ちながら聞く事ができました。分かりやすかったです。
- ・ 間隔運動の(基礎)定義のような言葉・内容を学習したと思います。姿勢保持一つ取っても、多くの支援の仕方があることがわかりました。
- ・ 作業療法的視点が教育現場でも必要であると学校現場にもっと知ってほしいです。
- ・ 何をやるにも、とても複雑な行程で私達の運動がなめらかに行う事ができるということを再認識しました。担任の先生の補助として入っているのですが、一般の先生方には、なかなか分かってもらえないので、少しでも、努力したいと思います。
- ・ 身体の動きを支援してあげる事が、学習の支援に役立つ事がよくわかりました。すべらない定規を買いたいと思います。
- ・ 不器用さにもその背景が様々であることに気付いてよかったです。
- ・ 感覚刺激を求める子は何人もみっていますが、脳への栄養という表現にとても納得しました。鉛筆を使う事、定規やコンパスを使うことの分析→具体的な教材・教具の例という流れがとて

も分かりやすかったです。使えるものを探して、使ってみたいと思いました。

- ・ 授業を見る際の新たな視点を得られた。個人的な課題としては、それをどう指導・支援に活かしていくことだと感じました。

■教員/中学校

- ・ 感覚運動機能の面は、なかなか勉強する機会がありませんでしたが、今回の講演を新鮮な気持ちで聞きました。学習に関わりの深いことだということは、以前から知っていましたが、あまり運動機能に問題のある生徒に出会うことが少なかったなので、この方面の学習が遅れていた事を痛感し、反省しているところです。
- ・ 教具を使う事で子供を褒めるネタになるなら、様々なグッズがあるようなので勉強したい。

■教員/高等学校

- ・ 細かいことでも子供が集中できるように必要なことを考えさせられました。

■教員/養護学校

- ・ 作業療法士さんからの視点はとても重要だと思います。スクール OT が北海道でも実現すればいいなと思います。
- ・ 教材教具を工夫する視点についてのお話を伺う事ができて良かったです。
- ・ 現在、困っていたことに関する話だったので、実践してみようと思いました。ありがとうございました。
- ・ 教材・教具の簡単な工夫など身近なもので紹介してくれたので今後の実践に活かします。
- ・ 作業療法的な視点からの講演は初参加でした。子供に合った教具を提供していきたいと思います。
- ・ もう少し具体例の部分に時間をかけていただきたかったです。

■教員/その他（大学教員、塾講師）

- ・ サポートについてのアイテムを活用したいと考えています。一人一人に応じた多様性がポイントかなと思います。
- ・ 子供の想いを的確に把握し、困難を軽減する適切な援助が沢山あるのに驚かされました。又の機会を望みます。

■作業療法士/医療&療育

- ・ 新たな教材がわかりました。
- ・ 同じ OT であるため、とても学ぶ事が多かったです。今回の話しを参考に、ボディチェックを行いもっと細やかな視点で見ていけたらと思います。

■作業療法士/医療（診療所・病院）

- ・ 学習の支援ツールの紹介が多くされており、実践しやすい内容だったと思います。感覚運動の理解について、「感覚」の説明がもう少しされていたら、子供の不器用さ、感覚欲求の理解がよりしやすかったのではないかと思います。特に今回多く取り上げられた「子供の感覚特性にあわせた漢字計算の支援など」「前庭」「固有」について、姿勢保持、操作だけでなく学習の OT 的な支援も教えてほしかったです。
- ・ 事例をもっと多く取り上げてほしかったです。
- ・ 今回は教具の研修会ということで教具の提案がメインでしたが、リハの場面での関わりの説明もあると臨床に非常に役立ちます。
- ・ 事例をもう少し多く取り入れ、OT としての工夫例をもっと聞きたかったです。（縄跳びの工夫例のような、既存の道具を使わずホームセンターで売っているもので利用工夫できる例。）
- ・ OT 以外の他職種やお母様の方にどう伝えていくかという点で参考になりました。
- ・ 姿勢保持や鉛筆、ハサミなど、よく臨床でも目にする機会があるものについて考えられることや関わり方を知ることができ、今後の参考になりました。

■作業療法士/療育

- ・ 私も OT です。自分がいつもお伝えさせて頂く事と同じ方法もあり共感できました。

■作業療法士/福祉

- ・ 様々な教材。また市販されている物で工夫できることを学び勉強になった。
- ・ 今まで知らなかった教材、教具を知ることができ、実際に現物を見せて頂き、とても勉強になりました。

■作業療法士/その他

- ・ とても良かった。

■その他/児童デイサービス

- ・ 教具の工夫、少しのズレが子供に与える影響など学ぶ事ができました。参考にしていきたいです。
- ・ 落ち着きのない子、座れない子への指導法が少し見えて、とても大きなヒントになりました。
- ・ 少しの工夫と思われる事も、どこにどう気付くかが課題であると感じました。多方面の知識といえますか、引出しを増やす、自分の学びが必要だと感じました。自由樹脂、滑り止めはすぐにやってみたいと思いました。
- ・ 身近にあるもので、使えるものがたくさんあるなど再発見です。刺激が必要な子に、初めから準備してあげるというのも目からウロコです。
- ・ 幼児期から学齢期へ続く、続いて使えるアイテムがたくさん有り、手作りでも作れそうなものもあってワクワクしました!! 又、アイテムを使う裏づけまでしっかりと学べて、嬉しく思えました!!

■その他/教育委員会

- ・ 作業療法士的な視点から学ぶ機会はあまりないので、貴重な話を聞けたように思います。

■その他/特別支援教育センター

- ・ 娘が、OTの勉強中です。今日のお話家で伝えます。作業分析の視点がとても印象に残りました。

■その他/相談員

- ・ 身体の使い方、作業療法での分析の方法を知る事ができ、児童観察の視点を広げることができたように思います。
- ・ 作業療法の考え方から子供を見る・・・ということは初めての体験だったのでとても参考になりました。
- ・ 努力をすると不必要な動きが出たりすることや、一見だらしがないと思う事も決めつけるのではなく、“何故”という視点が改めて大切と思いました。
- ・ これまで、OTの視点でのお話をお聞きする機会はなかったので、とても興味深く聞かせて頂きました。

■その他/学習支援員

- ・ 身のまわりに、動作に“不器用さ”を感じる子がいますが、その子達への理解ができ、対応法が分かって良かったです。

■その他/知的障害者施設

- ・ 午前に続き、かなり実践的な話が聞け、同様の問題を抱える方達に反映してほしいと思う。

■その他/心理士

- ・ 細かい部分まで説明がなされていて、分かりやすく良かったです。どこに注目して、どう工夫すれば良いか勉強になりました。

■その他/大学生

- ・ 上記と同じく、初めて知る教材がほとんどでしたので、今回参加してみて、本当に良かったです。また感覚運動機能については今まで詳しく学んだことはなかったため、学ぶきっかけとなりました。ありがとうございます。
- ・ 昼に具体物を見ていたので、とてもわかりやすかったです。確かにレーザーポインタのぐるぐるは脳がぐるぐる・・・。

■その他/職業紹介所職員

- ・ 市販の補助具をたくさん紹介して頂き、活用の仕方も良く分かりました。

■その他/一般企業

- ・ 写真を拝見して、不自然の原因を見抜く観察が大切だと思いました。

■その他/当事者

- ・ 小さい頃に、こういうことがわかっていたら、もっと楽だったなあと思います。

■その他/無記名

- ・ 生活のなかにも、身体発達や目の見る力について、今後考えたい。
- ・ 普段何気なく行っている行動にも様々な意識、様々な機能で動かしていて、決して「できて当たり前」ということではないのだということを改めて学びました。子供の行動を解釈すると

いう視点が大切なのだと感じました。

(3) ワークショップ (14:10~)

■保護者 / 「クローバー」の会員

- ・似ている所が多いのでこれから我が子にどう対応していくかを一緒に考えられ、いい機会になりました。
- ・身体の使い方、聴覚、視覚の問題として深く結びついているのだと実感しました。例があつてわかりやすかったです。
- ・男児の場合を皆で話す中で、自分の子供への適応を考えることが出来ました。有難うございます。

■保護者 / その他

- ・とても参考になりました。自分が気付かなかった細やかな点を、沢山発表で聞く事ができて改めて考えさせられました。
- ・勉強になりました。
- ・自分達で考えるという機会になり、よかった。今日の受講者は専門性をもった多様な人がおりワークショップも楽しかったです。
- ・視点をどこにおくか？ どこをおさえしていくか？ 指導にいかしていける指摘をいただいたと思います。

■教員/小学校

- ・色々な立場の方の意見が聞けて良かった。
- ・具体的な子についての話し合いが出来て良かったです。
- ・作業療法士の方など、色々な職種の方との交流により、色々な視点で考えることができました。正直、漢字テストやプリントが今回の資料並の子は、クラスに5、6人います。その子の状態の見方や支援の仕方など、ポイントを教えて頂けたのがとても良かったです。
- ・一人一人の子供の見取りはなかなか難しいです。色々勉強しなくてはならないと改めて思いました。ありがとうございました。
- ・気付いた事実を出し合う段階。出されたものを関連づける段階、そこから何が言えるか考える段階、この辺があいまいになってしまいました。
- ・資料の分析、具体的な支援まで有意義な時間でした。本事例の場合、小5年生児童を今からボトムアップするよう解説にありました。ものすごい労力が児童に付加されることになります。(通常学級で支援するようにすればとのことですが、他(機関、校内)との連携についても知りたかったです。)もっと焦点を(良い点を伸ばしながら)支援対策が必要だと感じました。
- ・事例研究的な取り組みが学校でもいろいろなしがらみなしで取り組めたら、現場はもっと動きやすくなると思いました。
- ・感じ方の違いがあり多様な意見を知る事ができてとても勉強になりました。
- ・色々な視点で意見が出て勉強になりました。お母さん方がとても鋭い視点で子供の課題を把握していてすごい!!と思いました。
- ・それぞれの立場、視点で子供のことを話し合えて、自分の足りなさに気付き、足りない部分の観点でみる事ができて良かったです。
- ・ビデオやノートを見た時に、他の先生や他職種の方々のお話を聞いて、とても参考になりました。気付けた点、気付けなかった点、ちがう見方だった点など、たくさんありました。実際の指導に生かせるヒント、実践例をたくさんいただき、ありがとうございました。
- ・講演があつて成り立つので、その前後の話が良く、上手くいけた。(見るべきポイントを明確にする)。

■教員/中学校

- ・ ワークショップの前に、講演 1、2 で学習させてもらったので、皆さんから色々な意見が出て来て進みました。まだまだ、気付かずに見過ごしている部分があり、状態像として関連づけてまとめてく力が足りないなあと思いました。他の方々から出て来る意見を参考にしながら、指導の手立てを知る事が出来たのでとても勉強になりました。児童・生徒に対する時、手立てと手順、方略指導が大変重要なことだと思いました。

- ・ 作業療法的な視点、というのが自分にとっては新しいもので、様々な視点を教わりました。

■教員/高等学校

- ・ 実際の子供の様子を素材として状況把握の仕方、対策の立て方などを話合うことができ、とても参考になりました。

■教員/養護学校

- ・ いろいろな職種、立場の方々と意見交換ができました。教員以外とのワークショップは新鮮でした。
- ・ 話し合いの仕組みからお話しして頂けると、内容が深まったと思います。KJ 法などを使われると良いのではないのでしょうか。あと、ビデオが見にくかったのが残念です。

■教員/その他（大学教員、塾講師）

- ・ 対象児の社会性という面からのアプローチも課題ですね。そのへんは山田先生から補正していただき、なるほどと思いました。

■作業療法士/医療&療育

- ・ 姿勢の見方として、手で支えているというのは、なるほどと思いました。自分で身体をサポートしている仕組みが再度確認できた。
- ・ ディスカッションすることで、母親の方、支援の方の視点が聞けたので良かったです。

■作業療法士/医療（診療所・病院）

- ・ 1人のケースを多職種で検討できる貴重な体験でした。フィードバックにより新たな視点も気付きましたので、良かったです。
- ・ 時間の関係もありますが、複数の事例検討ができるとよいと思います。
- ・ 事例検討の機会があった事はとても有意義でした。しかし、学校教職員や補助員の理解の乏しさ・解釈の甘さに残念な気持ちになりました。OT もそう変わらない人もいましたが・・・。
- ・ 1人の子供さんに対して様々な他職種からの意見を聞くことができ大変勉強になりました。講師の方のアドバイスもとても分かりやすかったです。

■作業療法士/療育

- ・ 事例を通して、グループで共有できてとても良かったです。

■作業療法士/福祉

- ・ 自分で考えるだけでなく、グループの人の意見を聴くことができ、勉強になった。
- ・ ワークショップをすることにより、他の皆さんの意見が沢山聞け、新たな発見、考えが沢山ありました。

■作業療法士/その他

- ・ 良かった。

■その他/児童デイサービス

- ・ 色々な方の意見が聞けて、考え方も色々だと感じました。とても良い機会でした。
- ・ 意見を出し合う事によって問題点が明確になり、今後の指導の参考となりました。
- ・ 講演を踏まえて、話し合うことができ、良かったです。
- ・ 午前中感じた問題点を見ぬく力の重要性を実感したワークショップでした。
- ・ 自分以外の立場（たまたま多かったのは学校の先生でした）の皆さんから話を聞くと、保育士の見方とちがう面も多く有りました!!「自分もそうなんだけど」と実体験を話して下さる場面も有り、普段の職場ではない話が出来ました。

■その他/特別支援教育センター

・様々な視点が出され勉強になりました。

■その他/相談員

- ・ 様々な職種の方々と意見交換ができ、子供理解の方法を深めることができました。
- ・ 子供のどこを見るか、どんな視点から見るか、は指導の仮説に繋がるので、色々な意見をお聞きする事ができ、参考にしていきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・ 普段持たない視点だったので面白かったです。学校の先生やOTさん達の目線が勉強になりました。講演の事例は、そんな大人もいるかも・・・と思いながら聞きました。
- ・ 短時間で、子供理解をすることはとても難しかったです。限られた情報の中で、子供さんをイメージしていくという点でとても勉強になりました。

■その他/学習支援員

- ・ 子供の見方が具体的にわかってとても勉強になりました。

■その他/知的障害者施設

- ・ 教員や作業療法士の方々が多くいるグループだったので様々な意見が多くあり、とても勉強になった。私達の職種とは別の視点をたくさん持っている事に尊敬を感じた。作業療法士に転職しようかと思ってしまうほどでした。

■その他/心理士

- ・ 観察、分析、話し合いと、とても勉強になりました。日々の支援の参考になると思いました

■その他/大学生

- ・ 知識不足で意見等がなくあまり参加できませんでしたが、皆さんの洞察力や、そこから考えられること等、ディスカッション形式で聞く事ができて考え方の参考になりました。また、最後の解説？では気付かなかった点や具体的な対策を知ることができて勉強になりました。実践的な話は本当に貴重なお話で、とてもためになりました。
- ・ 自分自身が気付かなかった事も他の人の話で気付く事ができ、勉強になった。

■その他/職業紹介所職員

- ・ いろいろな立場の方と話せて、考え方・見方の違いがわかった。また、先生からのアドバイスにより、足りない部分（見方や考え方）がわかりました。

■その他/一般企業

- ・ プリントは答え合わせをした後か否かが不明だった。

■その他/無記名

- ・ 見る事や聞く事様々の情報を多く知りました。
- ・ 子供達をどのように見立てていくのか、支援する側がもっとスキルを上げていかないといけないと感じました。実際の学校場面を見ての事例検討でしたので、とても参考になりました。

(4)「特別支援教育」「発達障害者支援法」に望まれることやその他ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

■保護者 /「クローバー」の会員

- ・ 学校の先生に一番こういう講演会に来てほしいです・・・。
- ・ OTの方とコーディネーターの方のコラボはすごくよい発想だとおもいます。

■保護者 /その他

- ・ 発達障害者支援法ができて、少しずつですが、普通学級の障害児への対応は良くなっていると思います。特別支援学校も努力されていると感じます。ただ特別支援学級が取り残されている気がします。障害の幅が広く対応が大変なのはよく理解できていますが、学力面でも自立面でも、将来的な展望がもてず、個別支援計画などのより具体的な活用を望みます。
- ・ 「通常級の先生方に対して」今日の様なワークショップを（具体策のPR）積極的に展開して行ってほしいです。（自分には関係ない。わからなければ支援級の先生にふっちゃえ、という意識を転換してほしいです）“普通の子にとっても、より分かりやすい方法です”という点を強調して頂けると、出席率がUPすると思います。“小一プロブレムの解消に役立ちます”も宣伝として欲しいです。
- ・ 学校の先生にも知ってもらえると困っている子供は援助をしてもらうことができ、自信を持

って生活できると思えました。不安に思っていたことも少し解消できました。今後も活動を続けていきたいです。ありがとうございました。

■教員/小学校

- ・ またこのような研修会を開いて頂けたらと思えます。
- ・ 各学校で行われている筈の支援委員会が、きちんと機能するようにしてほしい。現状報告の繰り返しです。担任への遠慮で、物を言いつらい雰囲気があります。
- ・ ありがとうございました！
- ・ 学校だけでは十分な支援は難しいので、保護者や専門機関の方がうまく協力し合えるようになるとよいと思えます。学校にサポーターがたくさん入れるようになればよいなと思っています。
- ・ 行政に対する働きかけができるといいなと思えます。

■教員/高等学校

- ・ 早く「特別」支援という「特別」の語がなくなると良いと思えます。

■教員/養護学校

- ・ 研修会開催ありがとうございました。

■教員/その他（大学教員、塾講師）

- ・ 質的向上が課題ですね。

■作業療法士/医療&療育

- ・ 北海道では発達分野がまだまだ狭いので、多くの研修会を行ってほしいと思えます。

■作業療法士/医療（診療所・病院）

- ・ 今回のような研修会を札幌以外の地方（北見や帯広等）でも行ってほしいです。

■作業療法士/療育

- ・ 私はOTですが、もっと学級の先生方に専門性を知って頂きたいと思えます。医療側と教育現場側との垣根を超えて仕事ができたら良いなと思っています。

■その他/児童デイサービス

- ・ いいなと思うヒントを得ても、立場上「学校に～して下さい」とは言いにくく、支援が続かないと感じます。特に普通級にいる問題を抱えている子供への支援では、学校との連携が難しく、どうアプローチしたら・・・と、思うところがあります。

■その他/教育委員会

- ・ 交流活動について、時数が多すぎるケースが現場で起っている。それに対して、「特別支援学級にいる意味がないのでは」といった意見があった。その辺について、考えるべきだと思う。

■その他/相談員

- ・ 家族全体が発達!?!と思うようなケースがあり、尚かつ大人になると修正難しく・・・というケースにあたるので子供の頃からの教育が大切と思えました。

■その他/学習支援員

- ・ 具体的支援を、このような形で紹介いただくのがとてもわかりやすくて良かったです。これからも紹介してもらいたいし、こちらもアンテナを高くしておくように努力したいと思います。ありがとうございました。

■その他/心理士

- ・ 一人一人について皆で話し合い理解を深める事。

■その他/一般企業

- ・ 特別支援教育を職業訓練に応用できると思うので、木工作業の指導に応用させたい。

■その他/当事者

- ・ 「みんなちがってみんないい」が、世の中のスタンダードになるように希望します。

■その他/無記名

- ・ 実践の様子をもっと知りたい。
- ・ 集団の中でできる個別的な配慮についても是非具体例を教えてください。高学年になると特に、何か特別な物（すべり止めなど）を使用することには抵抗もあると思えますので。



